

会 師 医 市 牧 小 苦
医 師

菅野 裕介

けがをした時どうするか

ほとんどの人が一生の間に、何度かけがを経験していると思います。医療機関にかからなければならぬけがは、少ないと思います。ですが、対処が悪く、治るまでに長期間を要したり、あとで手術が必要となる場合もあります。今回は、けがをした時について説明したいと思いま

軽度なら慌てる必要はない

出血がある場合は、出血点を確かめてから、そこを圧迫し、できれば心臓より高い位置になるようにします。普通は十分くらい圧迫を続けていると止血されます。

処置までの時間は短い方が良いでしょう。いはいうまでもありませんが、出血、痛みがひどくなければ、八時間以内であればあまり慌てる必要はありません。例え

ば、午前四時ごろにけがをしても、痛みや出血が軽度であれば、医療機関が始まってから受診しても、手遅れになることはありません。

同じ創（きず）でも、汚染されたものによる創には特に注意を要します。イヌやネコによるかみ傷、土やごみのついた物による創、さびたクギを刺した時などは、創の大小にかかわらず

処置が必要になります。浅いと思われるすり傷でも、土や砂がついたままにしておくと、入れ墨のように残ってしまうことがあります。

創に軟膏（こう）やみそなどを塗って来る人もいますが、治療の妨げとなりますので、きれいな布をあてておくだけで受診するようにしてください。

縫うと傷跡が残ると思ってい

る人も時々みかけますが、創が開いている時、ほとんどの場合は縫った方が早く、きれいに治ります。しかし、かすり傷以外は必ず傷跡は残ります。傷跡が目立つか目立たないかは、体質的なものと処置の仕方が問題となります。顔や関節の近くの傷は、創の大きさ、方向によっては、ひきつれて目や口が閉じにくくなったり、関節の伸びが悪くなることもあります。

けがをして心配な時は、早目にもよりの医療機関を受診してみてください。

